

残したい

想いと風日京



高山市
上宝町

高原山椒生産加工工業
NPO法人神通砂防理事長

竹腰 藤年さん
たけこし ふじとし

香り高い自慢の山椒と

地域を災害から守る砂防

どちらも奥飛騨の宝物や

守り続けていってほしいな



山椒と砂防に尽力

高山市奥飛騨温泉郷栃尾に生まれ育った竹腰藤年さんは、長年建築業を経験した後、地元の特産品である「高原山椒(たかはらさんしょう)」の生産や加工に携わっています。

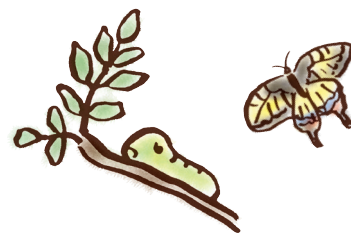
平成4年頃が最盛期だった山椒栽培ですが、後継者不足が深刻となっています。

高冷地で育った奥飛騨の山椒はたいへん香りが良く、県外からも需要があるため、生産量をあげるため、さまざまな道を模索しています。

また、故郷である栃尾周辺では昔から川の氾濫が多く、被害者も出た大きな災害を経験したことから、土砂災害から地域を守る「砂防事業」の推進にも尽力してきました。

奥飛騨の山椒

自生した山椒を
先人が改良したものが
「高原山椒」に繋がっています



虫や寒さは大敵

病気や獣害には比較的強い山椒ですが、アゲハ蝶の幼虫が葉を食べるため、見まわって駆除します。



気候に左右されやすく、特に遅霜で芽が弱ってしまうため寒さ対策が大切。

需要に応えるために

県外からも需要がある奥飛騨の山椒ですが、後継者が少なく生産量は減少しています。定年後の人材や、副業として栽培してもらうなどして担い手の確保を考えています。



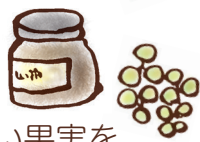
さまざまな利用

春



花山椒や葉を料理の彩や煮物に。

初夏



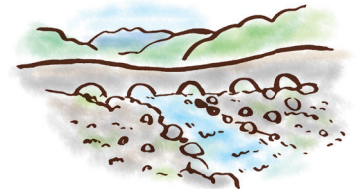
未成熟な青い果実を佃煮やちりめん山椒などに。

夏



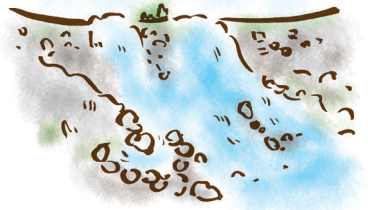
成熟した山椒を乾燥させて黒い種を取り除き、緑色の果皮を粉末にして香辛料に。

さまざまな砂防



地獄平砂防えん堤

優れた景観デザインで
観光でも人気。



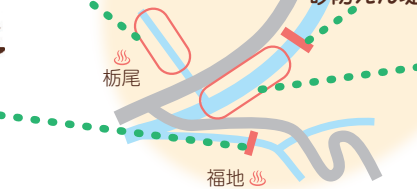
しのぶ砂防えん堤

自然の景色に合わせて造
られている。魚のための
魚道や遊歩道も工夫。



洞谷流路工

階段状の構造で
氾濫を防ぐ。



たから流路工

自然の石を利用。公園が整備され、憩い
の場としての役割も。



痛ましい災害の記憶

奥飛騨温泉郷栃尾では、
焼岳の火山活動の影響で地
質がもろく、たびたび川が
荒れていました。

昭和54年8月には台風に
よる集中豪雨が引き金とな
り、地区を流れる溪流・洞谷
(ほらだに)で発生した大き
な土石流が集落に雪崩れ込
みました。

3名の命が犠牲となり、
多くの家屋や学校が全半壊
する甚大な被害となりまし
た。復興までには3年以上
もの期間がかかりました。

砂防で町を守れ

災害をくり返さないため、
砂防の必要性を感じた住民
で話し合い、当時の上宝村
や新潟にある「北陸地方建

設局」へ陳情に行きました。

10年ほど要望を続け、「た
から流路工」の建設が決ま
りました。

これがうまくいくと村も
砂防にさらに前向きになり、
功労者である当時の村長の
名前をつけた「しのぶえん
堤」や焼岳の噴火にも備え
られる「地獄平砂防えん堤」
などの整備に繋がりました。

これらの砂防が出来てか
らは、1人の犠牲者も出て
いません。

平成17年に高山市と合併
する際には、奥飛騨の砂防
が衰退してしまわないよう
「NPO法人神通砂防」が設
立されました。

豪雨災害だけでなく、火
山の噴火や雪崩などさまざ
まな可能性に備えて、砂防
の重要性を広く伝える活動
をしています。

いま、
伝えたいこと



企・文
画・絵
大森貴絵
高山市

山椒も砂防も、奥飛騨を支えてくれるもの。次の世代にも
引き継いで大切にしていってほしい。

地域の安全を守ることが砂防の一番大切な役割やけど、奥
飛騨は観光地やでな。砂防の周りは景観を整えて、春は桜、
夏は蛍を見られるようにしたり、冬は近くの滝や砂防トンネ
ルをライトアップするなど、楽しんでもらえるような工夫も
しとるんやさ。